

# 大道芸アジア月報 2021年12月

郵便振替=00100-3-749814 名義「上島敏昭」  
vol. 32, no. 12  
編集・発行人 上島敏昭  
〒165-0025 東京都中野区沼袋2-31-2  
春山荘・東

## ■大道芸案内

主な大道芸スポット（土・日・祝日など、通年大道芸が見られるポイント）

- 大阪・天保山海遊館広場 <https://www.kaiyukan.com/thv/marketplace/>
- 大阪パフォーマーライセンス <http://www.osaka-performer.com/index.php>
- 名古屋・大須ふれあい広場 ■名古屋 POP UP ARTIST <http://popup-artist.com/index.html>
- しずおか大道芸の街 <http://shimarukai.org/> ■江ノ島大道芸 <https://www.fujisawa-kanko.jp/feature/daidoge.html>
- ヨコハマ大道芸（山下公園、グランモール公園、ジャックモール） <http://daidoge.jp/>
- お台場・デックス東京ビーチ ■みなとみらい東急スクエア ■テラスモール湘南 [www.studioeggs.com](http://www.studioeggs.com)
- 東京都へブンアーティスト [www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/](http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/)
- 仙台まちくるパフォーマーズ <https://machi-kuru.com/performers>

※新型コロナウイルスの蔓延状況、大きく変化し、活動が再開しはじめています。確認の上、お出かけください。

## ★訃報

大阪の街頭紙芝居師・鈴木常勝さんが8月22日、急逝大動脈症候群で亡くなった。享年73。ご冥福をお祈りします。

## ★今月の大道芸公演

△第21回へブンアーティスト公開審査会 <https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/bunka/heavenartist/> ○東京芸術劇場前広場

- 11月24（木）13：30-14：45 音楽部門  
25（金）10：30-16：30 / 26（土）10:30-16:15

△岡山大道芸2021 <https://twitter.com/OKAYAMADAIDOGEI> ○表町商店街

- 11月27（土）28（日）  
ASOBIBA、idio2、KANA∞、加納真実、桔梗ブラザーズ、Syan(28日のみ)、Laby  
ゲストパフォーマー：AIRFOOTWORKS、藤山大樹（18日のみ）

△ふじさわスタチュー美術館 [https://twitter.com/fujisawa\\_statue/](https://twitter.com/fujisawa_statue/) ○藤沢駅北口サンパール広場

- 11月27（土）28（日）  
アストロノーツ、くっぴー君、招福、アビエイター、アンティークドール・リリー、メリーさんの執事、福呼び人形ひより、ケンハモたろう、イロノナイ世界、かかしのもへじ、しろみときみ、見えそうで見えないビーナスの誕生、クラウンベッラ、ペインター、アテナ・ヤポニア、なにみてるの、石田さん、あんのうん

△大道芸フェスティバル in ちば2021 <http://www.daidoge.org/index.html> ○千葉市中央公園ほか

- 11月28（日）  
サンドマン、狼執事、ハンガーマン、Kanauknot、ファイター、おとちゃん、ココナッツ山本、森田智博、サクノキ、まめ、Kay、komatan、SYUN、あいあい、ドラマチック・ガマン、MAKI、AXEL翼、太平洋

△第1回大道芸オスピタパーティー in 宇都宮 with モリ芸キャラバン ○宇都宮市 バンバ市民広場

- 12月4（土）5（日） <https://www.facebook.com/ospitaparty/>  
Idio2、中村友美、柳貴川起助、バルーンパフォーマーさくら（4日のみ）、紙磨呂（4日のみ）、たらったらっ団長ヨッシー（5日のみ）、くす田くす博（5日のみ）

△恵那まちなか大道芸 with モリ芸キャラバン <https://twitter.com/npocdn> ○恵那駅前周辺

- 12月4（土）10：00-15：00  
オマールえび、ブンブク、バルーンパフォーマー・エル、CZ、チムチムサービス、ダンディふくちゃん、デュオアルッシーボ

△浅草六区ブロードウェイ通り大道芸 <https://asakusarokku.jp/performer/top> ○六区イベント広場

- 12月4（土）5（日）  
メランコリー鈴木、太平洋

△隅田川水辺フェスティバル大道芸2021 <https://twitter.com/himenotakashima/status/1392297582521585666?s=21>

- 12月5（日）11：00 ごろより日没 ○白鬚橋上流水辺テラス  
鷹島姫乃ほか

△水都おおがきパフォーマーズフェス in まちテラ ○大垣市南街区広場

- 大道芸人ボビー、大道芸人ソブ、ジャグラーRen、バルーンパフォーマーASUKA、マジシャンロイム、オマールえび、バルーンパフォーマーエル

△ザ・たじみ DE 大道芸 with モリ芸 <https://ameblo.jp/kusudakusuhiro/entry-12704980825.html>

- 12月11（土）12（日）  
オマールえび、バルーンパフォーマー・エル、バルーンパフォーマー哲（12日のみ）、くす田くす博、ぼびー、ジーニー、健山、Clown かのん、Rei Iwakura（11日のみ）、ファイター、中村友美

●12月12(日) 19(日)

「シ組」12/12・11:00 ケッチ、芸人まこと、こんぺい党、GABEZ、CHISHA、なるせ女剣劇団、ユキンコアキラ

「メ組」12/12・15:00 加藤みきお、清水宏、高取優耶、どん・ぺんた、彦一団子、めりこ、YAYA

「サ組」12/19・11:00 加納真実、シルヴプレ、カナルペキノワ、バーバラ村田、TEN-SHO、アダチ宣伝社

「イ組」12/19・15:00 サムくん&メロンちゃん、マジシャン RINTARO、望ノ社、ダメジャン小出、三雲いおり、Mr.BUNBUN

△とから夏空大道芸特別企画「DAYDREAM～サーカス小屋のクリスマス」<https://www.tokachinatsufes.com/> ○帯広市民文化ホール

●12月24(金) 18:00 開演

ダメじゃん小出、FUNNY BONES、りずむらいす、長すみ絵、吉川健斗

一般: ¥1500、小・中学生: ¥500、未就学児: 入場無料

予約: 0120-240-540 <https://www.confetti-web.com/daydream>

△シルク・ドゥ・ながめ ○ながめ余興場(群馬県みどり市大間々町)

●2022年1月16(日) 13:30 / 16:30 (各回とも開場は30分前)

出演: 奥澤秀人、白石あゆ美、森田智博、油布直輝

¥4700(全席自由)

予約: 1/16 13:30 <https://cdo.thebase.in/items/56213173>

16:30 <https://cdo.thebase.in/items/56213183>

若林正の

## 食って極楽

マンガ盛り!

・・・成城学園前「こじまや」

秋の舞台公演も、全席満員御礼という盛況で無事に終えることができた。芝居の楽しみは終演後の酒盛りだが、公演中は万一を考えて自粛。3月の公演と同じ成城学園前の劇場で、良さげな居酒屋を見つけていたが、今回も飲みに行けずじまい。ただここはランチをやっていたので、営業開始すぐに昼メシを食いに飛び込んでみた。

「こじまや」。駅からすぐの、藍色地に白抜きの暖簾がいかにも美味そうな居酒屋だ。ランチも三十くらいメニューがあり、ほとんどが¥850。一番乗りで入店、カキフライ定食を注文、飯を大盛りにしてもらう。飯が来るまで壁に張り巡らされたメニューを眺めると、良さげな肴が手頃な価格だ。いつか絶対飲みに来るぞと決意を新たにしていると、来ましたよ! 写真の通り飯がマンガ盛り!! 嬉しいことに、おおかフリカケ付き。カキフライはやや小振りながら熱々で6個。味噌汁がダシの効いた濃い味で、これ又んまい!

大満足で、あつという間に完食。ヤバイ、これから昼公演だ…満腹…。後から来た客は、あら煮定食を注文して、それも美味そうな感じ。次回はこれだな!



○まだけっこう食べる度=5ワカ

大道芸・見たり・聞いたり・演じたり  
☆その 361

## 霊長類研究所と猿まわし復活

上島敏昭

京都大学霊長類研究所(略して霊長研)が解体されることになったという。人類学、文化人類学、自然生態学、動物心理学、動物行動学、生物学など、いくつもの学問分野にまたがる研究、特に共同利用研究を行うユニークな研究機関として、世界的にも知られていただけに、このニュースは新聞をはじめテレビラジオなどのマスコミにも大きく取り上げられた。研究費の不正使用がその理由で、また所属研究者の論文捏造が明らかになったことも影響しているようだ。しかし、最近の自民党政権による学問の自由に対する、理不尽で、悪意ある、不当な介入が背景にあるのも事実だろう。研究所の存続を求める SNS での署名は、わずかな期間に3万件を超えた(12月1日時点)。

しかし「組織解体」の方針が覆される可能性は少ないようだ。

ところで、猿まわしの復活にこの霊長研が大きく関わったのだが、それについてあまり触れられたことがない。いまさらとは思いますが、猿まわし復活と霊長研との関わりについて、当事者である村崎修二さんに、あらためて電話でうかがってみた。村崎さんは、1977年の「周防猿まわしの会」の創立メンバーの一人。その後、仲間とともに同会を脱会し1983年、「猿舞座」を設立して、山口県周東町(現・岩国市)を拠点に活動を続けた。近年、体調をくずして、実演は子息の耕平さんに任せられているが、身体に気遣いながら生活されている。

——猿まわし復活のとき霊長研と共同研究を行っています、そのきっかけは何だったのですか?

村崎: そりゃあ、宮本(常一/民俗学)よ。宮本に霊長研と連絡とるようにいわれて。あれは1978年。7月の下旬。



◆周防猿まわしの会時代の村崎修二(1981年)

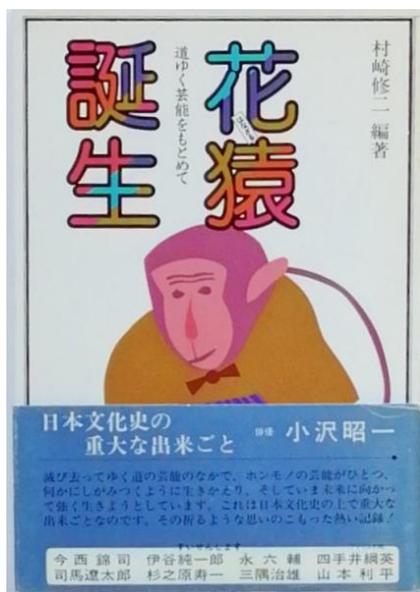
京都の部落問題研究所で夏季研修があった。毎年この時期にやっとなる。(当時) わしは県の解放同盟専従じゃったから(それに出席するために) 京都に行った。この機会に、(宮本の知友である) 霊長研の伊谷(純一郎/生態学・人類学) さんか米山(俊直/文化人類学) さんに会おうと思っていた。連絡したんだが、二人とも忙しくて京都におらんよ。それで京都駅から(霊長研の設立者の) 今西(錦司/生態学) さんに電話した。電話帳で調べて。宮本に言われてるから(私も必死だよ)。そうしたら電話に出た。「今西錦司先生のお宅でしょうか」って言ったら「今西錦司

はわしじゃ。「エェッ」。まさか本人が出るとは思ってなかったから、びっくりして……。で、これこれと話したら、「タクシーですぐ来い。30分ぐらいなら時間をとれる」と。有無を言わさんのじゃ。

#### ◇今西錦司との初面談

そのときのことを、『花猿誕生』(村崎修二編著、清風堂書店出版部、1986年)では次のように書いている。

〈さっそくタクシーをとばして北洛鴨川添いの先生の自宅を訪問することになった。(中略)今西先生に逢うといきなり『君、世間にはやっていいことと、やってはならないこととあるが今回のサルはどっちだ。最近宮本さんが、猿まわしに力を入れておられるということは知っていた。ところで君はもともと何をしてきた人間だ?』と、まるで面接試験でも受けるような質問に驚きました。/今まで、こんなタイプの人に会ったことがなかったもんですから、正直面喰いました。ぐずぐず答えていると、すぐ機嫌が悪くなり、今にも立ち去りかねない雰囲気があり、ドギマギしていると『ところで、本当に猿まわしの技術をもつ年寄がまだ健在なのだろうな? もし健在ならばぜひともその伝統技術をまず最優先に残さんとあかん』と今度はすでに相手をおみ込んだうえで、飛躍した話の展開をされる。〉



村崎: 30分ぐらいというはずが、なかなか帰さんのじゃ。結局は暗くなるまで。一人でしゃべるとるんじゃから。

『とにかく、早いうちに宮本さんと一度話がしたい。君のほうですぐに段取ってくれ、盆の十五、十六日がいいな。それから君、時間があればこれからすぐ、犬山のモンキ

ーセンターに行って、広瀬鎮というものに会いたまえ。鎮は鷹匠クラブについて何か知るとるやろうから、事情をきいておくように。参考になる』と注文を出され、ぼくはまるで暗示にかかったように、ただただ領くしか申し開きが立たない有様でした。〉(『花猿誕生』)

村崎: (今西は) いますぐに行けと言うんじゃ。そうして今西に聞いたからと言って、サルをモンキーセンターからもらえるようにしろ、と。で、(その晩は宿に) 泊まって、その足で、モンキーセンターに行って、(所長の) 四手井綱英さんと(学芸員の) 広瀬鎮さんに会うんじゃ。四手井さんは「ほう、今西はそんなこと言うったか」と言って笑った。鎮さんは、サルのもじゃが、それ以外にもいろいろ教えてくれた。(鎮さんは出身が) 京大でも東大でもないから苦勞しておって。(霊長研およびモンキーセンターという) 組織のむずかしさとかも……。つまりモンキーセンターは名鉄じゃからね。

#### ◇今西錦司・宮本常一会談

愛知県犬山市にある日本モンキーセンターは、世界屈指のサル類に特化した動物園および研究組織で、霊長研もすぐ近くにある。ちなみに現在は公益財団となり京都大学が運営しているが、2014年までは、財団法人ではあるものの名古屋鉄道が運営する遊園地・日本モンキーパークの一部門だった。設立は1956年だから、1967年設立の霊長研よりも古い。宮地伝三郎、今西錦司らが京都大学に作った霊長類研究グループの最初の拠点で、この研究機関であげた数々の学術的な成果のうえに、京都大学に霊長類研究所が作られた。いわば霊長研の母体ともいべき研究施設である。初代の所長は当時名鉄の監査役でもあった渋沢敬三で、その後を宮地が引き継ぎ、76年からは四手井が就任していた。



◆今西錦司

一泊二日の旅を終えて山口に戻り、今西の意向を伝えると宮本は快諾する。こうして8月のお盆に今西の京都邸を宮本が訪ね、今西・宮本会談が実現する。このとき二人だけで「猿まわし復活」の今後の方針について話し合われた。

村崎: 宮本(先生)はそのときのことを、きちんと報告書にして送ってくれよった。先生は自分の名前の入った原稿用紙を作っておって、それに細かい字でびっしりと(書いてくれた)。「これからが正念場じゃ」と。みんな報告してくれよった。あとで千春さん(宮本の長男)が見て、修ちゃんこれは宝じゃな、って。もちろん今でもとってありますよ。

宮本常一と今西錦司の二人が、それ以前からどのくらい親密であったかはわからないが、ふたりとも渋沢敬三と深い関わりがあった。敬三の祖父は、「日本の資本主義の父」とも言われる渋沢栄一。その孫で跡取りでもある敬三は、日銀総裁、大蔵大臣を歴任した経済人である。また民族(民俗)学にも造詣が深く、自宅にアチックミュージアムと称する研究所を持ち、同時にあらゆる学術研究の支援者でもあった。申年生まれだったことから、猿の研究にはなみなみならぬ関心を抱いていた。宮本はアチックミュージアム研究員で、渋沢の側近あり、今西にとって渋沢は霊長類研究の支援者であった。

村崎: なんもかんも、渋沢ですよ。宮本はもちろん、今西も。今西は柳田國男と渋沢しか「先生」っていわんのじゃけえ。

#### ◇猿の教育研究会の発足

二人の会談から一月後の9月11日、「猿の教育研究会」の初会合がもたれる。この集まりが霊長研の「共同利用研究」に発展することになる。初会合は名古屋の名鉄グランドホテルで行われた。参加メンバーにより、会の役員・会員が次のように決まった。会長は河合雅雄。相談役は、会合の呼びかけ人であった今西錦司、宮本常一、四手井綱英の三人。そして会員には、岩本光雄、江原昭善、浅野俊夫、森梅代、木村賛、村崎修二、山崎信寿、広瀬鎮、和(にぎ)秀雄らが名を連ねた。

各人について略記する。河合(1924-2021)は霊長類学の権威で、当時霊長研所長。今西(1902-92)は河合の師匠。宮本(1907-81)は民俗

学者で武蔵野美術大を77年に退職。猿まわし復活の提唱者である。四手井(1911-2009)は当時、日本モンキーセンター所長。森林生態学の第一人者。岩本(1930-2020)は後に日本モンキーセンター所長。東大出身で霊長研設立メンバー。霊長類の指紋の研究がある。江原(1927-)は人類学。のちに相山女学園大学長。浅野は行動分析学の第一人者。森(1941-)は女性のサル学フィールドワーカーの嚆矢。幸島の猿研究で知られる三戸ミツエの次女。木村(1945-)は東大、人類学。二足歩行の研究。山崎(1948-)は慶応大、人間工学。広瀬(1931-94)は文化人類学者。「周防猿まわしの会」の猿まわし復活活動をもとに『サル为学校』(中公新書)を書いている。和(にぎ)(1940-)は、獣医で、四手井の懐刀。のちに日本獣医畜産大に移る。そのとき村崎修二に大学で保護した子ザルを提供した。安登夢と名づけられて芸猿となり修二の愛棒として旅をつづけた。その記録は『猿曳き参上』(佐藤佳子・香月洋一郎共編、平凡社、1992年)として出版された。この項を書くために各人の業績やその後の肩書を調べて、錚々たる研究者が、よくもこれだけ終結したものだ、つくづく思う。

**村崎:** みんなが集まったのはこの時だけ。あとは実践。年に何度か霊長研に呼ばれたり、霊長研を通じて外国から研究者が来たりもした……。

初会合のとき最初の演説は今西がやった。「今日は宮本先生がわざわざ東京からおいでくださった、たいへん大事な会じゃ」と、「詳しくは宮本さんのほうからお話をさせていただく」。そういつて宮本常一に話をさせる。これを霊長研の連中に聞かせるわけよ。終わったら(今西は)もう帰ると言い出す。(どうしてかと)聞いたら、相撲がみたいからって。そういう人ですよ。それでも、さすが今西錦司と、みんながあとで言ったのが、研究者が手をあげて「この研究会でなにか成果は出るでしょうかね」と言ったとき、今西は立ち上がって、烈火のごとく怒った。「成果だと。成果が出ないものはやらんというのか。何を考えとる」。あとでは笑い話じゃけど(そのときは驚いた)。

#### ◇共同研究はどんなものだったか

具体的な研究の様子について、会員

である浅野俊夫はのちに、村崎との対談(『愛猿奇縁』村崎修二編著、解放出版社、2015年)でわかりやすく話している。



まず設立のときのことについて。

〈河合さんが中心になって、人類学者だとか霊長類学者とか、(霊長研に關係ある者は)できるだけみんな入ると言われましてね。そのほうがいろんな側面から、いろんな分野の研究ができるだろうということです。〉

また〈河合さんから「猿まわしの人たちが猿まわしを復活しようとしている。霊長類研究所として支援しようじゃないか」と私に話があった。〉とも言っている。河合雅雄さんが熱心に仲間を誘っていたことがわかる。

また浅野にすれば、研究者として、この共同利用研究の意義を次のように考えていた。

〈猿まわしの芸って、仕込むところまで見せないから、謎の世界なんだよね。ところが、共同利用研究では私たちの前でぜんぶやってくれる。これはまたとない機会なんで、こちら学ぶことも多いだろうし、教えることも多いだろう。ともかく、復活のためには、そういう共同研究が必要だろうということだったんです。〉

研究の方法については、

〈(村崎さんには)ときどきでいいから犬山によって、研究所で芸を見せられてお願ひしたんです。〉

〈ずいぶん芸を記録させてもらいました。研究所の宿泊施設を使えば長期滞在もできる。また農家を一軒借りてもやりましたね。〉

〈プロジェクトの終わりころに、捕らえたばかりの猿を調教して、立つ訓練から歩く訓練まで、ぜんぶや

ってもらって仕上げるまでの過程を、ぜんぶビデオに撮るっていうのを一回しました。〉

〈共同研究として集中的にやったのは、一年か二年だったと思いますけどね。〉

つまり映像記録を撮ることが重要な研究方法・研究手順となっていたようだ。

具体的な研究としては次のようなものがあつた。

〈猿の直立二足歩行の訓練を何年もやっていたんですが、猿の骨の構造はどうなってるんだという議論になって、葉山(杉夫=1932-2010。当時、関西大学教授。人類学。形態学)さんのところで骨の写真を撮れって話になったんですよ。人間の骨って背骨がS字状に湾曲していて骨盤につながっている。だけど普通の猿の背骨はただ真っ直ぐになってるだけなんです。そのS字状が二足歩行する猿には出ているというんで、(葉山さんが)何か論文にしたんじゃないかな。〉

また猿まわし側にとっては、霊長研の協力で、研究用のサル、すなわち芸猿を手に入れるようになった。

〈村崎:(今西が言っていたように、共同研究で使う猿は)モンキーセンター経由です。猿の選定については、四手井さんの指導で「京都の嵐山の猿でやってくれ」と言われたんよ。それで嵐山のなかから選ぶようになった。〉

京都市左京区の「嵐山モンキーパーク いわたやま」はニホンザル公苑で、京都大学の霊長研究グループが研究用に餌付けしたのが始まりで、1957年から一般公開されている。伝統的に霊長研の若手が猿の研究のためにこの山に入ることが多かった。村崎によれば「みなそれを修業と呼んでいたでいた」という。

#### ◇共同利用研究の終焉

1978年から10年が共同利用研究の期限だった。この間に、村崎修二は周防猿まわしの会を脱退して、「猿舞座」を起している。また猿まわしの会も劇場を熊本に設立するなど、猿まわし側は大きく変化した。同時に研究者側も、中心であった宮本、広瀬、今西が亡くなり、四手井、河合も高齢のため第一線から離れた。おそらくそのような理由で共同利用研究全体の総括は行われていないようだ。しかし、猿まわしという一度は滅びた伝統芸・伝統文化が復活する陰に、霊長研がおおきく関わっていたことだけは、忘れてはならないだろう。